

故事成語②

しめんそか

四面楚歌

ぎよふのり

漁夫の利

すいこう

推敲

ごじっぽひゃっぱ

五十歩百歩

かんべき

完璧

たざんのいし

他山の石

あっかん

圧巻

さいおうがうま

塞翁が馬

意味

周りを敵に囲まれること。

2人が争っている間に別の人が得をすること。

詩や作文を練り直すこと。

たいしてちがいのないこと。

欠点がなく完全なこと。

他人のどのような言動も、自分を向上させる助けになること。

最も優れている部分。

人の幸、不幸は予測できないこと。

故事

楚の王が敵軍に囲まれたとき、四方から故郷の歌が聞こえた。それを聞いて味方が寝返ってしまったと思いは絶望した。

シギ(鳥)が貝をつつくと貝はくちばしをはさんで、互いに争つていた。その間に漁師が両方を捕まえた。

推す←おす 敲く←たたく

「僧は推す月下の門」という詩の「推す」を「敲く」とするか迷っていると、詩の名人の韓愈に敲くが良

戦いの最中に五十歩逃げた兵士が百歩逃げた兵士を笑ったが、逃げたことには変わりはない。

宝である「和氏の璧」を別の国に奪われそうになったが、無事に国まで持ち帰った。

よその山の粗悪な石でも、宝石を磨くのに役立つ。

中国の試験で最優秀者の答案(巻)を一番上に置いた。

馬が逃げたが、名馬をつれて戻ってきた。その馬に乗った息子は骨折したが、戦争に行かずにすんだ。